



新緑の季節をクラシックと♪



『ブギーポップは笑わない』 上遠野 浩平

(スタッフ・H)

音楽を読む

ある日、竹田啓司は、恋人・宮下藤花に内在する人格「ブギーポップ」と出会う——。世界を閉ざす可能性を持つ「世界の敵」が現れる時、「彼」もまたこの世に現出する存在です。物語は複数の登場人物の視点で語られており、それぞれの主人公が些細に、大胆に、お互いを干渉することにより、一つの大きな事件が見えてくるようになります。そんな登場人物の中で、ひととき謎の多いブギーポップですが、彼は口笛を吹きながら登場します。その曲はワーグナーの『ニュルンベルグのマイスタージンガー』です。本作はシリーズ第1作なのですが、シリーズを追っていくとなぜ彼がこの曲を吹いているのかもわかります。まずは本作を楽しんでみてください。

『ブギーポップは笑わない』
上遠野 浩平

出版社：メディアワークス
請求記号：A913.64
中央図書館所蔵あり

ナクソスに
ログインして
アクセス！

作中でブギーポップが吹くのは、『ニュルンベルグのマイスタージンガー』第一幕の前奏曲です。ナクソスでも楽しめますので、ぜひ音楽とともに楽しみください

クラシックにふれよう

水の戯れ モーリス・ラヴェル(スタッフ・I)



毎年のように記録的な暑さが観測されている。こんな時期におすすめしたいのは、モーリス・ラヴェルによるピアノ曲「水の戯れ」だ。漫画『のだめカンタービレ』で、主人公がフランスのお城で演奏した曲として覚えている方も多いのではないだろうか。1901年に作曲されたこの作品によって、ラヴェルは大きな飛躍を遂げたと言われている。パリ音楽院時代のラヴェルは、順風満帆ではなかった。寧ろ、挫折の方が多かったようである。1900年のパリといえば、第5回パリ万博の開催に沸き立っていた。作曲科でフーガの賞を取れなかったラヴェルは、ローマ賞コンクールに挑むも、予選で落選。作曲科を除籍され、聴講生として過ごしていた、そんな中で「水の戯れ」は作られた。楽譜の冒頭には、アンリ・ド・レニエの「水にくすぐられて笑っている河の神…」という題辞が掲げられている。全曲は5分程度で、水のざわめき、噴水や小さな滝や小川の音楽的な水音の響きからインスピレーションを得たというこの作品は、冒頭からキラキラしたアルペジオによって水が流れ、飛び跳ねている様子が描かれている。情景が自然と目に浮かんでくるような印象主義音楽は、クラシックを聴き始めたばかりの人にも聴きやすく、楽しむことができるだろう。この夏、涼やかな音楽で涼を取ってみてはいかがだろうか。

参考文献：『ラヴェル』井上 さつき／著 音楽之友社 2019 駅南所蔵
『レコード芸術2019年9月号』音楽之友社 市内所蔵なし

ナクソスに
ログインして
アクセス！

曲の最後、美しいオブリガートを伴った第2主題が再現され、そのままコーダとなって蒸発するように消えていく部分は、演奏者の力量が試される。ぜひ、柔らかな感受性を持って、様々な演者による「水の戯れ」を聞き比べてほしい。

編集担当のひとこと

暑い毎日が続いていますが涼しい室内で、読書のおともに耳に涼しいクラシック音楽とともに過ごしませんか？
図書館のデータベースパソコンでまたご家庭のパソコンでナクソス・ミュージック・ライブラリーがお楽しみいただけます。担当のオススメはリスト作曲「エステ荘の噴水」です。リストが滞在していたエステ荘の噴水の水の動きをピアノで表現した作品です。ラヴェルの「水の戯れ」にも影響を与えたとされる美しい旋律で涼しさを感じてみてはいかがでしょうか。

